

# お月見って どんな行事？

「十五夜に月を観賞する」という代表的なお月見の風習が中国から日本に伝わってきたのは平安時代。はじめは貴族たちの宴として一部で祝われていましたが、それが徐々に一般的な行事として庶民の行事として根付いていきました。季節がちょうど収穫の秋に重なることや、満月が豊饒のシンボルとされていたことからお月見は収穫祭や豊作祈願として定着したといえます。

## ①お月見は二晩!?

十五夜は「中秋の名月」と呼ばれ、お月見といえばこの言葉を思い出す方も多いのではないのでしょうか。しかし、実は日本のお月見は、十五夜・十三夜の二晩あることをご存知でしたか？

十三夜は日本独自の風習で、平安時代に貴族たちが集まって詩歌を詠んだのが始まりとされています。最近忘れられがちな十三夜ですが、古くから片方の月だけを観賞することを「片見月」といい、縁起が悪いとされています。

## ②お月見っていつ？

十五夜は旧暦8月15日、十三夜は旧暦8月16日と決まっていますが、これを新暦に換算した9月15日・9月16日がお月見と思っている方も多いのではないのでしょうか。実はお月見の日は毎年違います。これは月の満ち欠けを基準にしていた旧暦と、太陽を基準にしている新暦との間にズレがあるため。ちなみに今年の十五夜は10/3、十三夜は10/30です。

実は「へえ〜」が多いのがお月見。  
最近あまり見かけなくなりましたが、  
お月見に大切なのは「収穫に対する感謝」の心。  
いつもはやらないイベントにトライして、  
生活にメリハリを与えるのもよし！  
Let'sお月見！

## ③お月見の夜は必ず満月？

十五夜・十三夜は毎年必ず満月になるわけではありません。これは月と地球の公転軌道によるもの。ちなみに今年の満月の夜は10月4日と11月3日。実はお月見の日＝満月という年は珍しいんです。

## ④お月見飾り

一般的に、三方に盛った団子やまんじゅう、里芋、枝豆や季節のくだものを供え、秋の七草を飾って月を観賞します。「秋の七草」とは、「なでしこ、おみなえし、くず、はぎ、桔梗、フジバカマ、おばな」のこと（※観賞用です）。十五夜の月を芋名月と呼ぶのに対して、十三夜は豆や栗を供えることが多いことから豆名月・栗名月と呼ばれます。

## ○編集後記

調べてみると地域によって供え物や祝い方が多様で、それだけ古来からお月見は生活に密着した行事だったとうかがい知ることができました。今年は現代らしくスイーツでお月見するのも粋ですね！

